

令和 6 年度

学校評価報告書



綾瀬市立綾北小学校

1 学校は、「生きてはたらく学力を身につけた子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。

学校の取組

本校では、学習の「めあて」に対する「振り返り」を行うことを共通認識として授業を行っています。児童が「何を学んだか」「何ができるようになったか」を自分の言葉で表現させることで、学んだことを整理するだけでなく、「できた」という自信をつけさせていけるように指導しています。校内研究では、今年度から国語科の研究へと進路を変更しました。子ども達に学ぶ楽しさに気付くことができる授業づくりをめざし、日々取り組んでいます。

児童 設問 「すすんで勉強した」



保護者 設問 「お子さんは、意欲的に学習に取り組んでいる」



教職員 設問 「学校は『生きてはたらく学力を身につけた子』を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる」



今後に向けて

昨年度の結果より、「進んで勉強した」と回答している児童が13%増加しています。また、「意欲的に取り組んだ」と回答された保護者も17%ほど増加しました。「家で授業のことを話す」「できると嬉しい」など、学習に主体的に取り組み、学ぶことへの喜びを感じている児童が増えてきたようです。今後も“学ぶ楽しさ”を味わわせることができる授業づくりを目指していきます。ただし、家庭学習に関しては感じ方に差があるようです。宿題や家庭学習への取り組みせ方など、保護者の方々とも懇談会等で話題に挙げていきたいと考えています。

2 児童は、学校行事や特別活動に積極的に参加している。

学校の取組

他者と関わりながら、ねばり強く取り組む力を育てることをねらって、運動会やなわとびグランドチャンピオン大会などの行事に取り組みました。運動会やなわとびグランドチャンピオン大会では、どの児童も輝く機会がもてるよう取り組み方を見直し、児童が自分の目標を設定し、それに向かって努力することで達成感を得られるような取り組みになるように努めました。また、遠足・宿泊行事をはじめとする活動や音楽発表会、委員会・クラブ活動・児童会などの特別活動の内容も検討を重ね、友達や異学年と関わりながら思いやりを育み、学習したことが生かせる場になるように努めました。

児童 設問 「運動会や学年の行事など、めあてをもってがんばった」



保護者 設問 「お子さんは、運動会や学年の行事などに意欲的に取り組んでいる」



今後に向けて

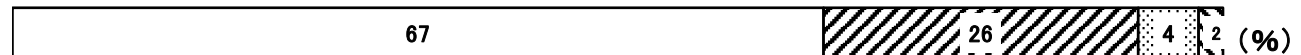
9割の児童がめあてをもって頑張ったと肯定的な回答をしています。めあてをもって練習を積み重ね、それを、保護者・地域の方や異学年の児童に発表する機会をもつことで、児童にとって満足感や達成感を得ることができたと捉えています。また、「わが子は意欲的に取り組んでいる」と感じた保護者については9割5分を超え、昨年度より増加しています。家庭でも行事の練習をする姿が見られた、行事に対して肯定的な会話が合ったというご意見もあり、児童を通して学校の様子が伝わっていると思われます。しかし、少数ではありますが、めあてをもってがんばれなかったと感じている児童もいることから、全児童が満足感や達成感を得られるように、よりよい取り組み方を模索し、さらなる改善について今後も検討を重ねていきます。

3 学校は、「まごころと思いやりのある子」を育てる指導を積極的に行っている。

学校の取組

本校では、『まごころ』は「丁寧に取り組む姿」を育てる、『思いやり』は友達の気持ちを考え、仲間づくりを行う、として重点的に取り組んでいます。今年度は、児童の言葉遣いとルール順守に課題を見出し、自分の発する言葉に気をつけること、学校のルールを守り、他者に迷惑をかけないことを全体で指導してきました。1月には人権朝会において人権講話を行い、「ふわふわ言葉」（望ましい言葉遣い）と「ちくちく言葉」（改めたい言葉遣い）について、絵本を通じて、指導しました。また、互いの人権を尊重するためにルールを守ることは最低限必要であることを伝えました。

児童 設問 「友だちとなかよくできた」



保護者 設問 「お子さんは、友だちと仲良くしている」



教職員 設問 「学校は「まごころと思いやりのある子」を育てる指導を積極的に行っている」



今後に向けて

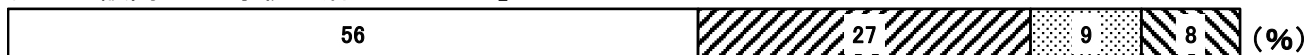
9割の児童が「友達と仲良くできた」と答えています。この結果は、前年と比べて保護者の「そう思う・ややそう思う」と共に、上向き傾向となりました。しかし、取組の中で述べた通り、言葉遣いやルール順守に課題があるため、友達の気持ちを考え、仲間づくりを行う、という『思いやり』の部分においては、これからも学級や学年単位から計画的に指導・支援していく必要があると考えています。引き続き、教職員自身が思いやりをもって児童に寄り添い、友達同士の関わり合いで日々必要な支援や助言を心掛け、友達と仲良くなる仕掛けづくりを、組織的に実践していきます。ご家庭でも言葉遣いやルール順守について声掛けしていただき、同じ方向性で子どもたちを育てていきたいと考えていますので、家庭教育からのバックアップのご協力をよろしくお願いいたします。

4 児童は友人や先生との学校生活に満足している。

学校の取組

本校では多様性を認め合い、一人ひとりが生き生きと学校生活を送れるよう、インクルーシブ教育の推進に努め、国際理解教育や人権教育を実施しています。国際教室への通級児童が多いことは本校の強みであり、当たり前の日常として多国籍な友達と関わり、学校生活を送ることができています。昨年度に引き続き、全校が一堂に会する形での朝会や児童集会、音楽発表会やなわ跳び大会を実施することができました。学級・学年間だけでなく全校で関わり合う機会がさらに増えました。その中で、児童が人と関わる喜びを味わったり達成感を感じたりできることも増えました。

児童 設問 「学校生活はたのしい」



今後に向けて

学校は、どの状況においても、児童にとって安心して楽しく過ごせる場所でありたいと考えています。そのために、教職員が工夫を重ねて学級・学年間を中心によりよい人間関係づくりに取り組んできました。

今年度、約8割の児童は満足しているという結果でした。よりよい学級集団づくりを基本として、学年・学校全体でさらにきめ細かい支援・相談体制を作り、多くの児童が満足できるようにしていきます。そして、児童が相互に関わり合いができる機会や自分の力を発揮できる機会をさらに増やして社会性の基礎を育むよう取り組んでいきます。

5 学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。

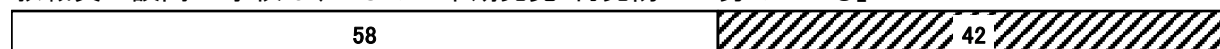
学校の取組

本校では、全学年で月末にスクールアンケートを実施しています。その中で、「いやなことがあった」「いやな思いをしている友達を見た」と答えた児童に対して、早期に教育相談を実施し、全職員で情報を共有するなど、早期解決に向けて取り組んでいます。さらに、「先生に話したいこと」など児童からの小さな意思表示にもアンテナを張り、必要に応じて教育相談を実施しています。「いじめ防止等対策委員会」では、スクールカウンセラーや専門機関等の助言を受けながら、全職員でいじめの根絶に取り組んでいます。いじめが発見された際には、担任だけでなく、学年や児童指導部、教育相談コーディネーター等と連携して、保護者と懇談するなど、解決にあたるようにしています。

保護者 設問 「学校は、道徳の時間やスクールアンケートなどを通して、いじめの早期発見・再発防止に努めている」



教職員 設問 「学校は、いじめの早期発見・再発防止に努めている」



今後に向けて

「努めている」と答えた保護者が5割をやや超え、昨年度よりは上向きましたが、まだまだ、満足いただける結果ではありません。子どもたちの声をしっかり受け止め、早期発見・再発防止に努めてまいります。「あまり、思わない・そう思わない」と感じた保護者の方は、是非、そのままにせず教育相談コーディネーターかスクールカウンセラーへ早急にご相談いただきたいと思います。

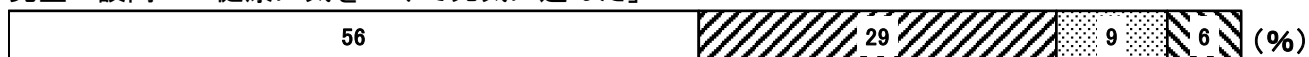
学校では、今後も学級のよりよい人間関係づくりを基本に、児童が相談しやすい雰囲気作りを行い、いじめの未然防止・早期発見に一層努めていきます。また、学校での取組に対してご理解・ご協力が得られるよう、保護者に向けて積極的に発信していきます。教職員は、研修を通して、自己の人権感覚の向上といじめ防止への意識のさらなる向上に努めていきます。

6 学校は「健康でねばり強い意志のある子」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。

学校の取組

本校では、健康・安全グループを中心に「病気・けがの予防」や「健康・安全な生活」の指導を計画的に行い、保健だよりや保健委員会の活動、安全指導等を通して、児童や家庭へ呼びかけています。また、養護教諭による歯科指導・性教育も計画的に実施しています。今年度は、学校保健委員会で、綾瀬市健康づくり推進課保健師、スクールカウンセラーを講師の先生にお招きし、綾北小の子どもたちの実態を鑑み、①子どものからだ～二次性徴から命のリレーまで～②思春期の心について～自分の心との付き合い方～について講話をいただきました。児童の意識を高め、健康的な生活が送れるよう、家庭との連携を大切にしています。

児童 設問 「健康に気をつけて元気に遊んだ」



保護者 設問 「お子さんは、健康に気をつけて元気に過ごしている」



教職員 設問 「学校は「健康でねばり強い意志のある子」を育てる指導に積極的に行っている」



今後に向けて

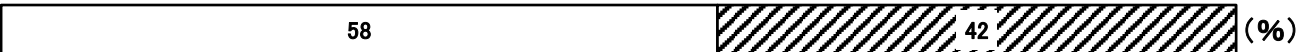
今年度も、健康で安全な生活について、日々の生活や学習活動の実態に応じてその都度共通理解し、全校児童に対して指導を積み重ねてきました。これにより、児童の意識を継続的に高め、手洗いの励行や、早寝早起き、歯磨き、好き嫌いなく食べること、適度な運動が大切であること等を意識化、習慣化することができてきました。しかし、高学年児童の中には、休み時間の外遊びに消極的な様子が見られる場面がありました。今後も引き続き計画的に指導を行う中で、体を動かして遊ぶことや運動の大切さをより実感できるような指導を工夫していきます。

7 学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。

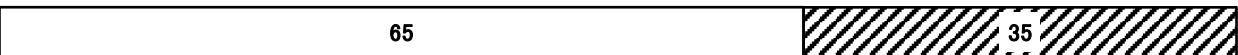
学校の取組

本校では、健康・安全グループの呼びかけで月に一度、全職員で分担し、教室や遊具など、施設の安全点検を行っています。不備が確認された時は、校務作業員や教育委員会担当者へ修理依頼し、修繕を行う体制をとっています。登下校の安全については、一斉下校訓練をはじめ、下校指導を定期的に行い、通学路の要所に立ち、下校の様子を見守りながら、危険箇所のチェックや情報共有を行い、安全な歩行の指導をしています。また、引き渡し訓練や退避訓練、必要に応じて想定を変えての避難訓練を計画的に実施しています。

教職員 設問 「学校は児童の安全のための指導に取り組んでいる」



教職員 設問 「学校は安全点検を的確に行っている」



今後に向けて

「安全」は学校にとって最重要課題の一つであり、施設の点検には全職員協力のもと、毎月細心の注意を払って実施しています。必要な修理箇所や改善点を適切に挙げ、その都度校務作業員や教育委員会に修理・点検を依頼、順次対策を行っています。安全教育については、年間を通じて各学年児童の実態に応じて計画的に指導を行いました。今後も地域の登下校ボランティア「見守り隊」の方や、PTA校外指導委員の方に協力していただき、事故、けがのない安全・安心な学校をめざしていきます。

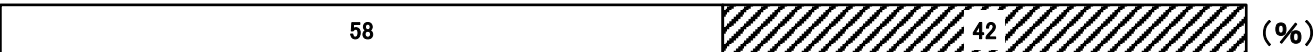
8 学校は児童に応じた支援の工夫をしている。

学校の取組

本校では、児童一人ひとりの実態に応じた支援を行うために、教育相談コーディネーターを中心として、毎週、児童理解についての会議をもち、職員間での情報共有を行っています。また、必要に応じてケース会議を開き、支援の在り方を話し合っています。学習の支援が必要な児童には、学習支援者による個別的な支援や担任とのチームティーチングなどの支援体制をとっています。今年度から、「サポートルーム」が設置され、学校に行きにくい、また、教室に入りにくい児童が前向きに学校生活を送るための気持ちを整える場ができました。「サポートルーム」を利用して、少しずつ教室で過ごせるようになった児童も複数います。

スクールカウンセラーや外部の相談機関とも連携し、児童にとってよりよい支援体制が取れるようにしています。

教職員 設問 「学校は個々の児童に応じた支援を行っている」



今後に向けて

引き続き全職員で情報を共有し、児童の実態を把握して、児童理解に努めていきます。そして、一人ひとりのニーズに合った支援体制を充実させ、支援や相談を積極的に行っていきます。また、保護者の要望に応じて、専門機関の相談員などとも連携を図っていきます。

9 校長を中心とした運営組織になっている。

学校の取組

本校では、校長の学校経営方針のもと、全教職員が「育てたい児童の資質・能力」として「かかわりつなげる力・考え表現し伝え合う力・ねばり強く取り組む力」を育み、「生き生きと学び合う子」を育てることを目指しています。学校運営組織においては、4つのグループが連携し、様々な視点から児童の実態を把握し、計画立案・実践・評価（振り返り）・改善を通して、よりよい学校づくりを目指しています。

教職員 設問 「学校は校長を中心とした運営組織となっている」



今後に向けて

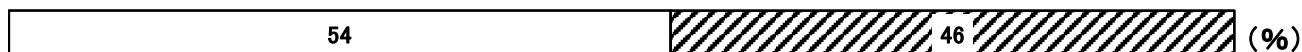
学校教育目標を具現化するために、学校グランドデザインに掲げためざす児童像「生き生きと学び合う子」の育成に向けて、「かかわりつなげる力・考え表現し伝え合う力・ねばり強く取り組む力」を各行事や教育活動を通して育成できるよう、各グループが担当の所掌について「児童の実態把握・計画・実践・評価・改善」を行い、運営組織の充実を図ります。今後もよりよい学校運営のために、担当総括教諭の4名が中心となり、各グループが連携しながら、活発で効率的な運営が機能するよう努めていきます。

10 学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。

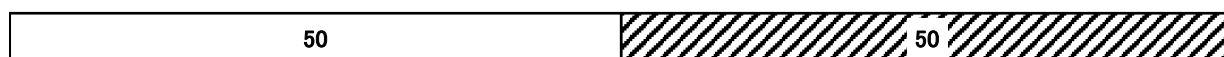
学校の取組

本校では、「校内研究」を中心に据えて、「学ぶことを楽しむ」「自分の考えをもつ」「困難に立ち向かう」ことのできる児童の育成を目指しています。今年度は、国語科の授業公開を全クラスで行い、外部講師の助言を受けながら授業改善に取り組んでいます。普段の授業でも、教室のドアを開けっぱなしにして、自由に授業を見合う習慣もついてきました。また、ミニ研修では、今困っていることや、職員に聞いてみたいことなど、グループでテーマを決めて話し合いを重ねてきました。

教職員 設問 「学校は教職員の力量を高めるための校内研究の取組に力を入れている」



教職員 設問 「学校は教職員の力量を高めるための研修に取り組んでいる」



今後に向けて

昨年度まで積み上げてきた校内研究をベースとして、子ども達の「読むこと」の力を伸ばすだけでなく、教師の国語科の指導力も向上できるように研究を進めていきます。どのように研究を進めていくか課題は多いですが、全職員で共に考え、思いを一つにしながら歩んでいきたいと思えます。よりよい授業・研究を進めていくために、教職員同士のコミュニケーションを図り、互いに高められるような環境が作れるように努めていきます。

1 1 学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。

学校の取組

本校では、毎週、学年や学級の児童の課題をきめ細かく情報交換し合い、教職員全員で児童を支援するよう努めています。課題があったと判断した時は、担任（学年）、児童指導・支援グループ、教育相談コーディネーターだけでなく、スクールカウンセラーや外部の関係機関とも連携して課題の早期発見、早期解決を図っています。また、学校の教育活動を保護者に知らせることで、よりよい児童の成長に向けての連携を図っています。

保護者 設問 「学校は子どもたちの理解に努め、よりよい成長のための工夫をしている」



教職員 設問 「学校は児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている」



今後に向けて

「そう思う・ややそう思う」と回答した保護者は、昨年度よりやや上向き、6割を超えました。しかし、まだ満足いただける結果とは言えないので、学級経営の検証や分析を行い、今後も児童の実態把握にさらに努めていく必要があると捉えています。

教職員による情報交換や児童のスクールアンケートなどで、児童の実態や課題を細かく把握し、担任や学年、教育相談コーディネーターやスクールカウンセラーがチームで対応し、支援・指導を行い共通理解を図ります。さらに、児童一人ひとりとの対話を大切にし児童同士のコミュニケーションが円滑に進むような取組等も検討し推進していきます。

「そう思わない・わからない」と答えている方は、昨年度よりは少なくなりましたが、そういった保護者の方のニーズを把握するため、教育相談コーディネーターやスクールカウンセラーの教育相談活用を促したいと考えています。

1 2 学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。

学校の取組

本校では、学校・学年便り、保健便り、学校ホームページ、その他、懇談会や個別面談等を通じて学校の教育活動の様子を保護者や地域の方々に伝えています。また、登下校の見守りボランティアや読み語りボランティアをはじめ、生活科や家庭科、総合的な学習の時間等の学習では保護者や地域の方々にも協力していただいています。今年度も、学校運営協議会での熟議を生かし、地域の方々のお力を借りて地域と連携した学習をしたり、地域の専門家のアドバイスを得て飼育小屋の改修をしたりすることができました。また、除草作業や栽培活動など、保護者や地域の方がボランティアにご協力くださり、開かれた学校を目指した数々の取組を行いました。

保護者 設問 「学校は学校・学年便りなどで子ども達の学習や活動を知らせている」



教職員 設問 「学校は学校・学年便りなどで子ども達の学習や活動を知らせている」



今後に向けて

学校からの便りで「学校の取り組みが伝わっている」と回答した保護者の割合は、昨年度は6割程度でしたが、今年度は9割を超える結果となりました。しかしながら、取組や行事の予定はよく分かるが、活動の様子が分かりづらいとのご意見もいただきました。紙面の都合上、全ての活動の詳細をお知らせすることは難しいですが、PTA広報紙などの協力を得ながら、今後も様々な取組や活動の様子をお知らせできるよう努めていきます。また、文書の配付だけでなく、ホームページや学校情報配信アプリなどを活用し、学校から必要な情報が速やかに、また確実に保護者の手元へ届くように市と協働していきたいと考えています。

グラフの凡例は、次の通りです。併せてご覧ください。

- ☐ そう思う
- ☒ ややそう思う
- ☒ あまり思わない
- ☒ そう思わない
- ☒ わからない